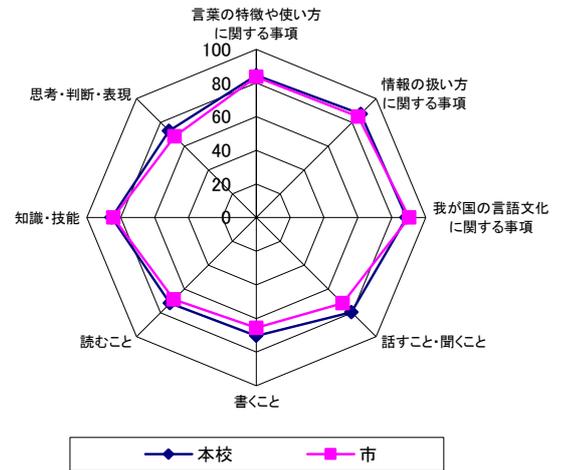


宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	84.6	83.6	80.3
	情報の扱い方に関する事項	87.2	85.0	78.9
	我が国の言語文化に関する事項	88.7	90.2	84.2
	話すこと・聞くこと	79.5	72.1	67.8
	書くこと	70.3	65.5	51.8
	読むこと	72.0	68.9	57.8
観点別	知識・技能	85.3	84.4	80.5
	思考・判断・表現	72.8	68.2	57.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



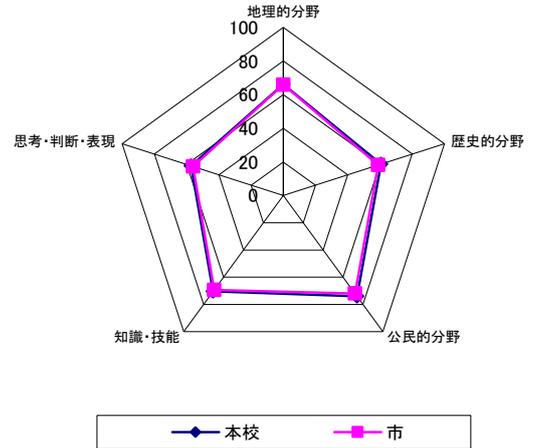
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は市平均を1.0ポイント上回っている。</p> <p>○「類義語について理解している」の正答率は、市平均を1.5ポイント上回っている。</p> <p>●「小学校で学習した漢字を正しく書いている」、「第3学年までに学習した漢字を正しく読んでいる」についての正答率は、いずれも3問中1問で市平均を下回っており、既習漢字の定着に一部課題が見られる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・漢字プリントや定期的な漢字テストを計画的に活用し、既習漢字の読み書きの確実な定着を図るとともに、多義語や類義語、故事成語については例文づくりや短文作成を通して、文脈に応じて適切に使い分ける力を高める。</p> <p>・語句の意味や由来を調べる活動を取り入れ、学んだ語彙を日常の作文やスピーチの中で意図的に活用し、語彙力の充実と表現の質の向上につなげる。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は市平均を2.2ポイント上回っている。</p> <p>○「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使っている」の正答率は、市平均を2.2ポイント上回っている。</p>	<p>・文章や資料から必要な情報を抜き出し、図や表、構成メモに整理する活動を継続して行い、情報の関係性や構造を的確に捉える力を伸ばす。</p> <p>・複数の資料を比較、関連付けて考える課題を設定し、根拠を明確にしながら自分の考えをまとめたり発表したりする学習を通して、思考力と表現力のさらなる向上を図る。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は市平均を1.5ポイント下回っている。</p> <p>●「現代語訳を手掛かりに古典を読んでいる」の正答率は、市平均を1.5ポイント下回っている。</p>	<p>・授業の導入での音読や暗唱を継続的にを行い、歴史的仮名遣いや古典特有の語句に繰り返し触れ、基礎的事項の確実な定着を図る。</p> <p>・原文と現代語訳を照らし合わせる活動や、古典作品の背景を調べる学習を取り入れ、内容や表現の特色を具体的に捉える力を育成し、伝統的な言語文化への理解と関心を深める。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は市平均を7.4ポイント上回っている。</p> <p>○「自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話している」の正答率は、市平均を11.7ポイント上回っている。</p> <p>○「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している」の正答率は、市平均を7.0ポイント上回っている。</p>	<p>・話し合い活動の前に自分の意見をメモや構成表に整理するなどの準備時間を確保し、目的や相手を意識した論理的な話し方ができるよう指導を充実する。</p> <p>・グループ討議や発表の機会を意図的に設定し、互いの意見を比較・検討しながら考えを深める活動を通して、相手意識をもった効果的なコミュニケーション力を一層高める。</p>
書くこと	<p>平均正答率は市平均を4.8ポイント上回っている。</p> <p>○全ての設問において正答率が市平均を上回っている。特に「自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している」の正答率は、4問全ての設問において市平均を上回っている。</p>	<p>・条件や目的を明確にした課題作文や小作文を日常的に取り入れ、自分の考えを根拠を明確にして構成する記述力の向上を図る。</p> <p>・書いた文章を互いに読み合い、観点を示した相互評価や推敲の活動を継続し、論理的な文章構成力と表現の工夫をさらに高める。</p>
読むこと	<p>平均正答率は市平均を3.1ポイント上回っている。</p> <p>○「文学的な文章の内容を読み取る」では、全ての設問において正答率が市平均を上回っている。特に「論理の展開の仕方を捉えている」の短答式の設問における正答率は、市平均を6.3ポイント上回っている。</p> <p>●「説明的な文章の内容を読み取る」における「文章の構成や論理展開について評価している」の正答率は、市平均を2.1ポイント下回っている。</p>	<p>・文章構成図の作成や段落相互の関係を整理する活動を通して、文学的文章では心情や表現の効果を、説明的文章では論理の展開を的確に捉える力を伸ばす。</p> <p>・接続語やキーワードに着目する指導を継続するとともに、構成の工夫や表現の効果について話し合い活動を取り入れ、文章を客観的、分析的に読み取る力の向上を図る。</p>

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	66.1	66.0	57.8
	歴史的分野	60.6	58.9	51.4
	公民的分野	74.0	72.0	72.2
観点別	知識・技能	70.5	69.3	62.9
	思考・判断・表現	57.3	56.0	49.1



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

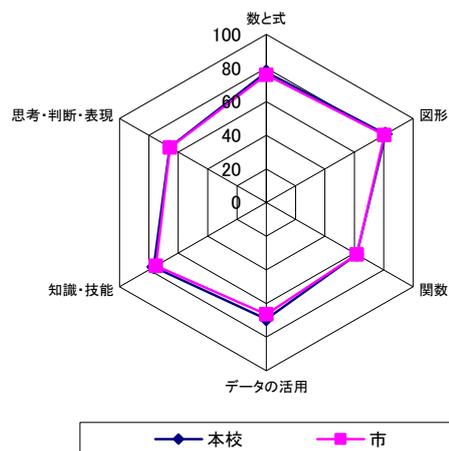
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	平均正答率は市平均と同程度であった。 ○「中心からの距離と方位が正しい地図についての理解をもとに考察し、表現している」の正答率は、市平均を4.8ポイント上回っている。 ●「日本の資源の輸入先についての理解をもとに判断している」の正答率は、市平均を9.6ポイント下回っている。	・さまざまな地図やグラフの特徴を理解し、資料を正しく読み取ることができるよう引き続き、授業の中で繰り返し取り組んでいく。 ・日本の地域的特色を理解するだけでなく、その特色がもたらす日本の生活様式や諸外国との関係などを理解できるよう複数の資料を関連付けて読み取る活動を取り入れる。
歴史的分野	平均正答率は市の平均を1.7ポイント上回っている。 ○「大和政権の勢力の広がりについて資料をもとに判断している」の正答率は、市平均を11ポイント上回っている。 ●「公事方御定書について考察している」の正答率は、市平均を6.5ポイント下回っている。	・中世までの日本については、資料などを用いて時代ごとの特徴を比較しながら大まかな流れを理解できるようにする。 ・江戸、明治時代についての理解に課題が見られる。江戸、明治時代には改革や明治維新など大きな変革が繰り返し起こることから、それぞれの改革の内容や行った人物を調べて、まとめる活動を取り入れるなどして時代の流れや出来事を正しく捉えられるようにする。
公民的分野	平均正答率は市の平均を2ポイント上回っている。 問題ごとの平均正答率では、市平均を大きく下回っているものはなかった。 ○「フランス人権宣言の主な内容を理解している」の正答率は91.7%と高く、市平均を4.5ポイント上回っている。	・基本的人権に含まれる様々な権利について、自分事として捉えられるように日々のニュースなどで関連する内容を取り上げ、自分の意見をもたせるようにする。 ・国会、内閣、裁判所の役割やそれぞれの関係などを図式化してまとめるなどして、それぞれの関係性を整理して理解できるようにする。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	77.6	76.0	69.0
	図形	81.3	80.5	67.7
	関数	61.6	61.6	55.0
	データの活用	69.3	66.5	56.4
観点別	知識・技能	76.7	75.1	69.4
	思考・判断・表現	65.8	65.6	47.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

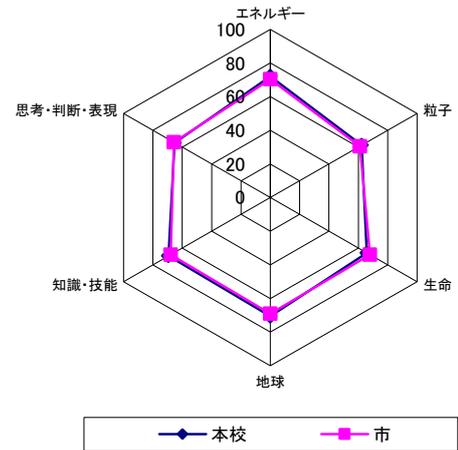
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は市平均を1.6ポイント上回っている。</p> <p>○「具体的な事象における数量の関係をとらえ、その関係を比例式で表すことができる」の正答率は、市平均を3.7ポイント上回っている。</p> <p>●「$(x+a)(x+b)$の公式を使った展開ができる」の正答率は、市平均を0.5ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着を図るために反復学習を継続する。 公式を活用した設問での正答率を上げるために、一人一人が課題解決に向き合ったり、公式を自ら導き出せたりできるような指導法の工夫を行う。
図形	<p>平均正答率は市平均を0.8ポイント上回っている。</p> <p>○「対称移動させて重ね合わせることができる四角形について、対応する点の位置を選ぶことができる」の正答率は、市平均を3.0ポイント上回っている。</p> <p>●「補助線をひいて、平行線と錯角の関係を利用して角の大きさを求めることができる」の正答率は、市平均を2.5ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図形の移動や角度の変化の概念を身に付けることができるようにICTの活用を工夫する。 角の大きさを求めるためにどんな補助線をひくとよいかイメージさせるために多くの問題に触れさせる。
関数	<p>平均正答率は市平均と同じであった。</p> <p>○「関数$y=ax^2$におけるyの変域を求めることができる」の正答率は、市平均を2.7ポイント上回っている。</p> <p>●「具体的な事象について、yがxに反比例することをもとに、その式を立式することができる」の正答率は、市平均を3.1ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2乗に比例する関数の式を立てたり、変域を求めたりすることの関連性について考える問題に数多く触れさせたい。 数学的な表現の仕方を日頃から意識させ、課題解決の方法を数学的に説明できるような授業の改善を図る。
データの活用	<p>平均正答率は市平均を2.8ポイント上回っている。</p> <p>○「四分位範囲を求めることができる」の正答率は、市平均を8.6ポイント上回っている。</p> <p>●「箱ひげ図から、示された主張ができる理由を説明することができる」の正答率は、市平均を2.7ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事柄の確率や四分位範囲を求めることについて、統計的に課題を解決する問題に多く触れさせたい。 記述式の設問での正答率を上げるために、多様な考えの比較検討をできるような指導法の工夫を行う。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	72.0	70.3	59.4
	粒子	62.3	61.1	56.4
	生命	65.8	67.9	62.7
	地球	70.5	69.1	65.6
観点別	知識・技能	69.4	67.9	63.8
	思考・判断・表現	65.1	65.7	57.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

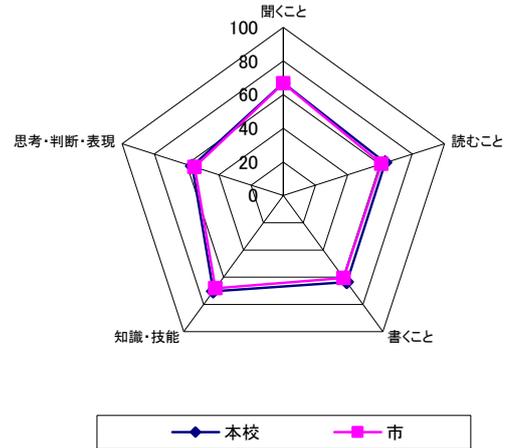
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>平均正答率は市平均を1.7ポイント上回っている。</p> <p>○「カーブミラーに凸面鏡を利用している理由を説明できる」の正答率は、市平均を6.7ポイント上回っている。</p> <p>●「力学的エネルギーの保存について理解し、おもりの正しい振り方を指摘できる」の正答率は、市平均を5.7ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本のさらなる定着を図るため、理科ワークやeライブラリなどの活用を継続する。 既習事項と日常生活との関連が薄いと考えられるので、授業で身近なことを例に挙げて説明したり、自分たちで調べさせたりするなどの活動を通して、日常生活との関連を図ることができるようにする。
粒子	<p>平均正答率は市平均を1.2ポイント上回っている。</p> <p>○「酸性の水溶液にアルカリ性の水溶液を加えていったときの、水溶液の性質の変化を指摘できる」の正答率は、市平均を5.4ポイント上回っている。</p> <p>●「溶解度のグラフから、水溶液を冷やしていったとき、結晶が最も多く得られる水溶液を分析できる」の正答率は、市平均を2.9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本のさらなる定着を図るため、理科ワークやeライブラリなどの活用を継続する。 思考力を養うために、実験の際に根拠をもって仮説や実験の方法を考えさせるなどの活動を工夫する。 溶解度のグラフを読み取る問題に課題が見られるので、数多くの問題演習に取り組ませる。
生命	<p>平均正答率は市平均を2.1ポイント下回っている。</p> <p>○「子の代の種子の遺伝子の組み合わせを理解している」の正答率は、市平均を3.9ポイント上回っている。</p> <p>●「葉の表側にワセリンをぬった植物がどこで蒸散しているのかを指摘できる」の正答率は、市平均を6.2ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本のさらなる定着を図るため、理科ワークやeライブラリなどの活用を継続する。 視覚的にとらえやすく映像教材を積極的に利用していくとともに、重要語句同士を関連付けて覚えさせるための工夫をする。
地球	<p>平均正答率は市平均を1.4ポイント上回っている。</p> <p>○「初期微動を理解している」の正答率は、市平均を3.6ポイント上回っている。</p> <p>●「低気圧とそのまわりの大気の流れを指摘できる」の正答率は、市平均を1.5ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本のさらなる定着を図るため、理科ワークやeライブラリなどの活用を継続する。 知識をもとに推測するような思考力を身に付けさせるため、応用問題にも積極的に取り組ませる。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	67.0	66.8	61.5
	読むこと	63.2	60.9	55.5
	書くこと	63.7	60.5	50.9
観点別	知識・技能	70.4	68.1	64.1
	思考・判断・表現	56.6	55.0	45.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は市の平均を0.2ポイント上回っている。</p> <p>○「対話を聞き、その内容を理解して、適切に応答している(一緒に運んでくれないかと頼まれて)」の正答率は、市平均を7.1ポイント上回っている。</p> <p>●「日常的话题について、必要な情報を聞き取っている」の正答率は、市平均を4.4ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書本文を用いたディクテーション(書き取り)活動を継続的に実施し、単語の「音」と「綴り」の一致と定着を図る。 リスニング演習に取り組む際、音声を聞く前段階として、空欄前後の文脈から「書くべき情報の種類」を予測させる活動を授業に取り入れる。
読むこと	<p>平均正答率は市の平均を2.3ポイント上回っている。</p> <p>○「メールを読み、代名詞themが指す内容を理解している」の正答率は、市平均を3.5ポイント上回っている。</p> <p>●「対話文を読み、対話の流れと資料から、必要な情報を把握して適切なグラフを選んでいる」の正答率は、市平均を3.0ポイント下回っており、37.8%と低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 長文読解の活動において、図表のタイトルや写真から内容を予測して読み始める練習を行い、英文全体の見通しをもつ力を育成するようにする。 スキミング活動として、最初から全文を訳すのではなく、必要なキーワードを素早く見つけ出す活動を授業に取り入れる。
書くこと	<p>平均正答率は市の平均を3.2ポイント上回っている。</p> <p>○「自分の考えや意見についての具体的な理由や説明を、相手に伝えるように書いている」の正答率は、市平均を4.3ポイント上回っている。</p> <p>●「対話の流れに合った英文を、相手に伝えるように書いている(howを使って交通手段をたずねる)」の正答率は、市平均を2.3ポイント上回るものの、32.6%と低く、記述の正確性に課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「まとまった内容を書く力」を伸ばすために、エッセイライティングによる書き直し指導を継続し、表現の質をより高めていく。 即興的に伝える力を育てるため、帯活動としての「1分間スピーチ」を継続し、「話すこと(やり取り)」で深めた考えを「書くこと」へ自然とつながるよう指導の工夫を行う。

宇都宮市立宮の原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学業指導の充実	・チャイム2分前着席を徹底させる。 ・休み時間のうちに教科書等の学習用具は机に出し、黒板をきれいに消すよう指導する。 ・教室の前面の視覚情報を減らし、授業に集中させる。	・「授業の始まりには席についている」の設問に肯定的に回答した割合は、市平均と比較して1年生1.5ポイント、2年生1.1ポイント、3年生2.0ポイントとそれぞれ上回っている。
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進 「宇都宮モデル」に留意した授業の展開や改善	・学習課題をはっきり理解させ、じっくり課題に取り組ませ、課題に対する結論をすっきりまとめ、本時の学習を振り返る時間を確保する。	・「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の設問に肯定的に回答した割合は、市平均と比較して1年生3.8ポイントと上回っているが、2年生3.2ポイント、3年生1.2ポイントとそれぞれ下回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・各教科の平均正答率の多くが、全国・県・市平均を上回っており、良好な状況である。

・基礎(知識・技能)・活用(思考・判断・表現)別では、ほとんどの教科の設問において、国・県・市平均を上回っているが、正答率が50%以下の設問もあった。

・「宇都宮モデル」を活用し、内容や時間のまとまり(単元や題材等)を見通した授業をデザインした上で、ねらいを明確にして実施しながら、単位時間の指導の充実を図る。「はっきり・じっくり・すっきり」を意識した授業改善により、自ら進んで学習に取り組む生徒の育成に努めたい。